

回覧

C・S だより

コミュニティ スクール

『東益津小中学校運営協議会』広報

令和 6年 2月 No. 26

地域の中で、大人も楽しく学びましょう

C・S = 地域 は “楽校”

◎ 1/14 「新春ふるさと探訪：山の手未来の会」



1月14日、雲一つ無い絶好の晴天の下、山の手会館に集合した小学生1人を含む参加者と「山の手未来の会」会員の総勢約30人が、ロウバイや越前水仙の花と香りを愛でながら「新春ふるさと探訪」を楽しみました。毎年恒例の行事ですが、今年は3つの新“名所”が紹介されました。「明治初期の“方ノ上小学校跡地”、井伊直孝の“旧居跡”、河川改修祈念碑」には、真新しい案内板が設置されていました。地元の方の説明からは、地域への愛着と誇りが伝わってきました。参加者も興味深く聞き入っていました。“地域の中で大人も楽しく学ぶ” これぞC・Sの真髄ですね。

◎1/15 「面接練習」～ 応援の気持ちを込めて



高校受験を間近にした東中3年生の「面接練習」に7人の地域講師が協力させて頂きました。少しでも慣れて本番で役に立てばという応援の気持ちを込めて向き合った生徒さんたちから、真剣に将来を見つめ全力で前進しようとする活力を与られました。

◎ 1/14 「どんど焼き：石脇下親睦会」



石脇公園で行われた「どんど焼き」に、東中生2名が地域貢献活動として参加しました。格式高い神事の後に、積み上げられたお札やお飾りに火が入り、たくさんの地域の皆さんが無病息災を祈っていました。こうした地域の伝統行事が大切に守られていることは、素晴らしいことだと思います。“地域の絆”を感じさせられました。しかし、ここに子どもたちの姿が少ないことが残念に思われてなりません。子どもたちの地域行事への参加が、学校での学習と上手に結びつけられたなら、積極的に評価されたなら“学校と地域の一体性”はもっと高められるのではないかなと、期待が高まります。 コロナ禍の3年間で下火になってしまった地域活動を再興するためにも、『子どもを真ん中に』すえ、楽しみのある企画・子ども会の協力・学校との連携など、改めて検討を深めたいものですね。

◎ 1/13「まちづくり市民集会」で東益津の事例紹介



1月13日、市文化会館で市民協働課主催の「まちづくり市民集会」(通称“ワールドカフェ”)が開催されました。応募市民と市長・市議会議員・自治会役員・市職員等の約120人が、小グループに分かれテーマについて話し合いました。今年のテーマは『地域の絆・子どもの未来』で、“C・S”も話題の中心に取り上げられ、具体的事例として、東益津の取り組みを紹介させて頂きました。CS活動の推進が“地域の絆”づくりに直結することを、多様な活動事例をもとにお伝えしました。

1月23日、「第2回焼津市CS推進研修会」が実施されました。ここでも“先行事例”として、「地域を愛する益津の子」を目指して活躍する東中生の「地域域献活動」などを紹介しました。